

# 軽く滑らか 和紙糸バッグ

水分を含ませた和紙を糸に加

工する「水より製法」の特許を持つ撚糸業の備後撚糸（福山市）が、「和紙デニム」と「和紙帆布」を素材にした女性用バッグを作った。独自開発した生地の軽さや質感を服飾業界にアピールする。

デニムはカイハラ（福山市）、

帆布は丸進工業（倉敷市）と共同開発した。横糸に和紙糸を使い、和紙の配合はデニムが三割、

帆布は四割程度。和紙糸は同じ

太さや強度の綿糸と比べて重量

が約四分の三と軽い。糸にけば

がないため、生地の手触りが滑

らかで独特の光沢を放つ。吸水

## 備後撚糸が開発 見本市出展へ

性が高く染色しやすい。

バッグは、和紙帆布に花模様などを手描きした高級感のある「光」、和紙デニムでカジユアルルに使える「ブロンライト」の二種類。京都市在住の織布デザイナーの協力を得て、シヨルダールバッグなど見本商品ができた。

和紙糸は、一平方センチあたり十五センチの薄い和紙を数センチ幅に裁断したスリットテープが原料。独自の溶液を含ませて撚糸機でより合わせ、用途に応じてテープの幅、ねじる回数や強さを調節する。

二十三日から東京ビッグサイ

ト（東京）で始まるファッション製品の見本市「インターナショナル・ファッション・フェア」に初めて出展する。同社は「多くの人に見てもらい、本格的な生産、販売につなげる」としている。

（伊藤敬子）



前列が和紙帆布の手描きバッグ、後列が和紙デニムのカジュアルバッグ